



三気の門

PORTAL SANKI

NO.35

2026.1.28

文責：佐藤正一

基礎学力とは…。失われた30年を取り戻すために。

まつり か かんり でん がくりよく なに かんが
～茉莉花官吏伝にみる学力とは何かを考える～

むかし しょうがっこう こうちよう とし ねんめ せい き そ がくりよく みずか
昔、小学校の校長をしていた時に1年目から21世紀の基礎学力である「自ら
まな ちから つ せんげん なつやす しゅくだい しゅくだい じしゅがくしゅう き か
学ぶ力」を付けると宣言し、夏休みの宿題なし、宿題は自主学習に切り替えるこ
とをしました。当初は批判を浴びましたが、4年間の取組で効果は絶大。あまりの
がくりよく の きょういく と あ さいしょ はんたい
学力の伸びに教育センターから問い合わせがきたほどです。最初は反対していた
ほごしゃ きょういん せいか み なつとく ほごしゃ しょうがっこう
保護者も教員も成果を見て納得しました。しかし、ある保護者が「小学校はこうや
って21世紀に必要な学力を高め、成果を上げているのに中学校は相変わらず、山ほ
ど宿題を出している。小学校から中学校へ意見してくれ」と言われました。

わたし たこう がた いけん たちば さいわ しんがく
私としては他校のやり方に意見する立場ではないのですが、幸い、進学する
ちゅうがっこう こうちよう わたし だいがく せんぱい がくりよくこうじょう きょうしゅくだいがくいん
中学校の校長は私の大学の先輩。しかも、学力向上について教職大学院で
きょうじゅ けいけん せんもんか はなし
教授をしていた経験もある専門家なので話をしてみました。

せんぱい こた わ ちゅうがっこう じゅけん
先輩の答えは「それは分かっている。けれど、中学校は受験があるし、これまで
どおりのやり方じゃないと保護者も教員も納得させられない」。「いや、入試問題も変
わっていくし、今変えないと失われた30年が続くだけじゃないですか」といった
のですが、ほごしゃ きょういん せつとく いま い
「保護者や教員を説得できないので、今は…」と言われました。まあ、分
からなくもないです。その学校は進学率もよいし、学力テストの成績は市内随一。変
えるせんとう た
える先頭に立つモチベーションはわかりません。

ですが、だいがくにゅうし もんだい か こうこうにゅうし
でも、それから大学入試の問題が変わり、高校入試
もんだい すうねん ないよう か
問題もここ数年、内容が変わってきました。やらされ
べんきょう と ねん た
勉強では解けなくなっています。それから7年経った
げんざい がっこう ふく し ぜんたい がくしゅうしんだん
現在、その学校も含めて、市全体の学習診断テストの
せいせき けつ たか
成績も決して高いとはいえません。

にほん うしな ねん じだい
日本には「失われた30年」という時代がありまし
へいせいじだい ねんかん けいざい しっぱい げんいん きょういく
た。平成時代の31年間。経済の失敗が原因ですが、教育
しっぱい わたし おも へいせいじだい ほんかくか
の失敗も私はあると思います。平成時代に本格化した



「ゆとり教育」と批判された方針は、実は21世紀型教育への転換だったのですが、マスコミや世論に「学力が低下した」「ゆとりはダメだ」の大合唱で全く逆方向の「詰め込み教育」に転換。結果的に日本の国力はこの30年で大幅に低下。失われた30年になってしまいました。今は「生きる力」「自ら学び自ら考える力」がやはり大事だとなり、従来の「基礎学力」と並行して育てるとなっていますが、どうしても昔ながらの「読み」「書き」「計算」の暗記型の勉強の方が重視され、「基礎学力」というと「漢字」「計算」という発想になってしまっています。

もちろん、それも大事です。「知識」がなかったら、議論も新たな発想も生まれません。しかし、「知識」だけでも何も生まれません。日本人は「改善」は得意だが、「イノベーション」は苦手。「アイデア」はあるが、「ビジネス」は苦手と言われるのも、「詰め込み教育」の勝者が日本の社会をリードしているからです。

国際競争に負ける日本企業を見ると、この30年間の教育が失敗だったことを否定できないと思いませんか？



「茉莉花官吏伝」という漫画作品があります。古代中国を模した国で、茉莉花という女官が科挙試験に合格して、官吏（国の役人）として出世していくという物語です。

茉莉花には一目見れば記憶できるという能力（ギフテッド）がありますが、科挙試験では苦戦します。なぜなら、「覚えた」だけでは通用せず、それをつかって議論し、解答を導き出す力が彼女にはなかったからです。彼女はそれを自覚し、経験を積みながら優れた役人として国を支える存在になっていくという物語です。ファンタジー物語ではありますが、これ今の日本の学校で学ぶ子供たちと同じだよね…と思ってしまいました。

保見中学校では「自主学習」を中心に自ら学ぶ力を育てています。自主学習だから、勉強しないでいいわけではありません。漢字や計算力を軽視しているわけでもありません。自らの意志でしっかりと覚えて自分のものにしていける力を付けていきます。この力はそれぞれが社会で生きていくときに役立つはずですよ。

何も考えずに「当たり前」ばかりをやっている学校教育が自分の頭で考えずに、何でも人のせいにする大人をつくる。

「学校の当たり前をやめた」 著者 工藤勇一